令和３年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第三小学校

１．本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

・国語の平均正答率は全国平均値と同程度で、算数では全国平均値よりもやや低い数値となっています。
・全国比の標準偏差は、国語が高く、算数はやや高い数値となっています。
・国語では正答数９問以上の児童が約６割で、正答数５問以下の児童は約１割でした。また、算数では正答数１２問以上の児童が約６割で、正答数５問以下の児童は約１割でした。国語・算数とも学力的に不安な児童が一定数あり、課題ととらえています。
・国語の調査では、「書く能力」について良好な結果でした。一方で「言葉の特徴や使い方」や「読む能力」については課題がありました。
・算数の調査では、「変化と関係」について良好な結果でした。一方で「数と計算」や「思考・判断・表現」については課題がありました。

２．各教科における成果と課題について

	成　果	課　題
国語	・「書くこと」3の問題のような実生活に基づいた内容の問題は、文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができていました。	・「読むこと」の記述式の問題の正答率が低く、 ①目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける力 ②目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力 ③問題の意図を正しく読み取る力 に課題があることが分かります。 ・言語について、修飾と被修飾の関係に気付いて文の構成を理解することに課題がみられました。
算数	・「データの活用」の中でも、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題の正答率が高くなっていました。 ・「変化と関係」の速さを求める除法の式と商の意味の理解については正答率が高くなっています。面積図や線分図を使った学習の成果が表れていると考えられます。	・「数と計算」の中でも、 ①　小数を用いた「倍」の意味 ②　除数と被除数の関係を理解すること ③　除法の結果（余りの意味）について日常生活の場面に即して判断する力 に課題がある事が分かります。 ・日常生活に必要な時刻の求め方の問題では、全国の正答率を下回っています。 ・「データの活用」において、複数のデータがある場合、それらを比較し、特徴や傾向を読み取る力に課題があることがわかります。 ・問題文の条件を正しく読み取れていないと思われる問題は、誤答の割合が高い傾向にありました。

３．成果と課題を踏まえた今後の取組みの方向性について

⑴教職員の授業力向上

今年度は「どの子も分かる算数の１時間」～読解力の育成と文章題の解決を活かして～というテーマのもと年間３回の校内研究授業を行い、教職員一人ひとりの授業力向上をめざすとともに、児童が１時間の授業の中で何を学べたかをしっかり確認できるよう、１時間１時間を大切にして指導法を研究実践しています。

また、「三小デザイン」として、授業の構成を考える視点（構造化・視覚化・共有化・焦点化）を教職員間で共通理解し、研修を積むなどして実践力の向上をめざしてきました。国語、算数の調査結果からも分かるように、文章を正しく読み取る力に課題があることから、読解力を問う問題の練習やテストを行い、その結果を参考にしながら、どの子も「分かる」指導法をより深く研究し実践していく必要があります。

⑵読む力を向上させる授業づくり

児童が正確に読む力を高めるために、どの教科においても音読を取り入れた授業づくりを推進しています。

また、読む力の中でもさらにどの部分で力をつけるとよいのか、詳しくみとるために、年２回、リーディングスキルテストを実施します。児童が修飾・被修飾の関係や文章の大体を把握することに課題があることがわかっています。

資料と文章を関連付けて読む力、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する力や文章の構成を読み取る力を付けるために、音読教材や指導法を工夫し、研究・実践していく必要があります。

⑶タブレット端末の活用

インターネットを利用して必要な資料を探したり、プレゼンテーションの資料を作成したりして、資料を活用する力や資料と文章を結び付けて考える力、資料について分かりやすく説明する力などをつけるために、タブレット端末を学習のツールとして積極的に活用します。

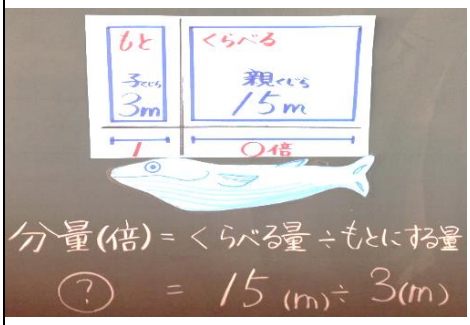
ただ、インターネットでやみくもに情報を探し引用するだけでなく、たくさんの情報の中から児童が必要な情報を取捨選択し、活用できるようにするために語彙力を高められるような実践を進めていく必要があります。

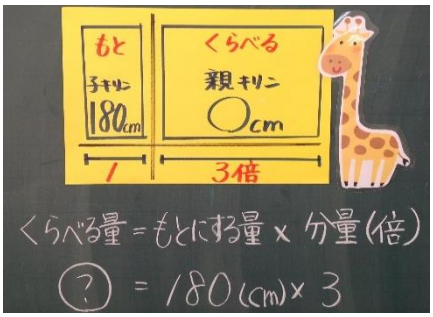
４．学力向上に関する現在の取組みと今後の改善について

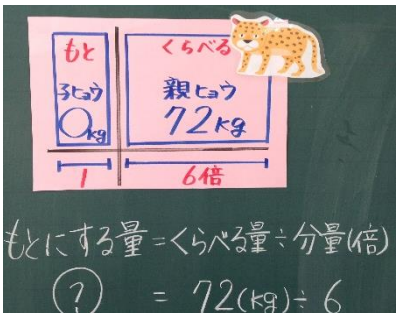
⑴授業力向上

「どの子も分かる算数の１時間」～読解力の育成と文章題の解決を活かして～というテーマのもと、指導法を研究、実践しています。また、「三小デザイン」として、授業の構成を考える視点（構造化・視覚化・共有化・焦点化）を教職員間で共通理解し、研修を積むなどして実践力の向上をめざしてきました。

例えば、４年生の倍の見方では、分量（クジラ）、比べる量（キリン）、もとにする量（ヒョウ）をそれぞれ求める方法を、図と式で確認する学習を行っています。





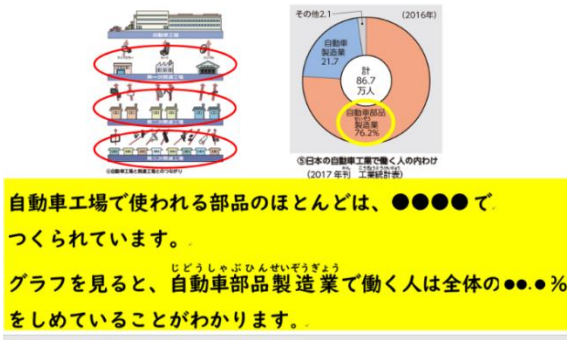


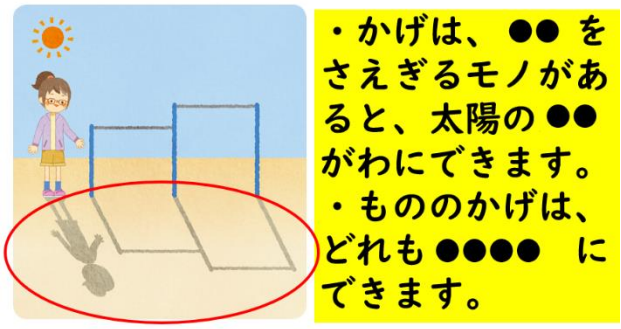
どんな文章問題でも復習をくり返すことで面積図を使いこなし、それを理解する力を身につけていく必要があります。

また、「三小デザイン」を常に意識した授業づくりをしていくために、研修やアイデア共有のための機会を増やしていく必要があります。

⑵音読を取り入れた授業づくり

どの教科においても、教科書をもとに作成した「音読指導」を継続的に行っています。重要語句の理解だけでなく、資料と文章を関連付けて読む力を付けられるように取り組んでいます。



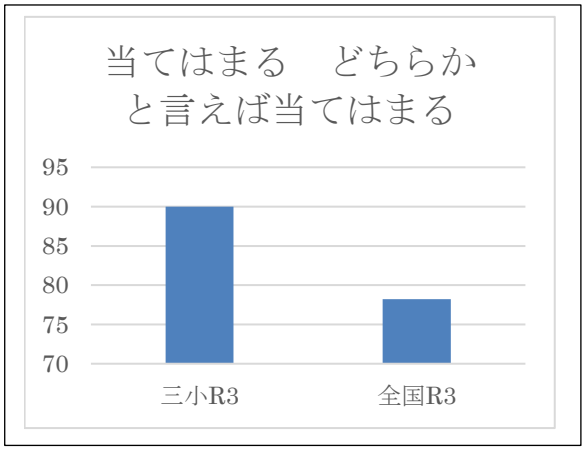


資料と文章を関連付けて読む力だけでなく、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する力や文章の構成を読み取る力を付けるために、音読教材や指導法を工夫し、研究・実践していく必要があります。また、くり返し読んで語彙力を高めるために、どのクラスも毎日継続して行えるよう授業への取り入れ方の工夫を考え、教職員間で共有する必要があります。

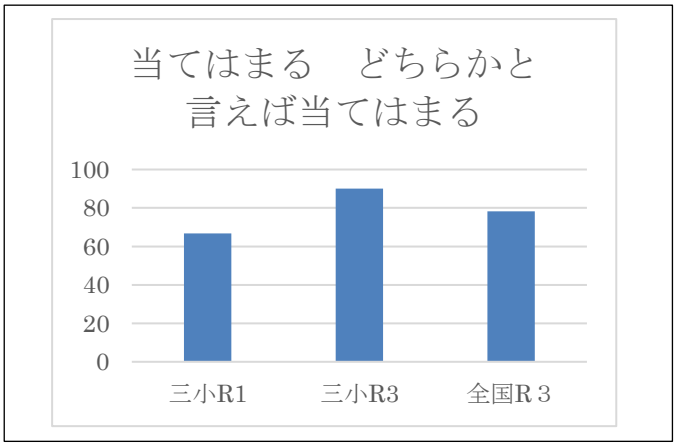
５．児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

自分でやるときめたことは、やり遂げるようにしていますか。



5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



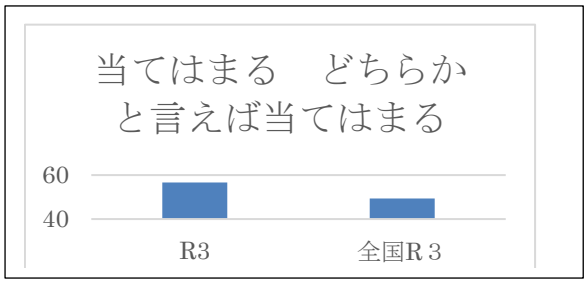
児童質問紙調査全般の傾向として、前向きな回答が多くありました。「自分でやるときめたことは、やりとげるようにしていますか」という質問や「5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて・・・」でも、多くの割合の児童が肯定的回答をしています。他の質問に対しても肯定的回答が多いです。また、令和元年度の結果と比べても肯定的回答の割合が増加しているものも見られます。

これらの要因として、本校が研究テーマとして昨年度まで取り組んできた「どの子も分かる算数の 1 時間～文章題の見方・考え方の育成～」の成果だと考えています。全ての児童が授業内容を理解し、意欲的に取り組めるようにしていくための手立てを校内で検討し、実践してきました。また、学習に取り組む姿勢は定着しつつあり、努力することの大切さも感じることができています。国語や算数の結果としては、今後の課題としてとらえないといけない点がありますが、学習に向かう姿勢としては、これからの小学校から中学校にかけての学習の中で、学力向上にもつながっていくと考えています。

今年度は研究テーマを「どの子も分かる算数の 1 時間～読解力の育成と文章題の解決を活かして～」とし、昨年度までの取組みを継続するとともに、より児童の実態に合った内容となるように検討、改善を進めていきます。今後も、どの子も自分に自信を持ち、より意欲的に学習に臨めるような取組みを進めていきます。

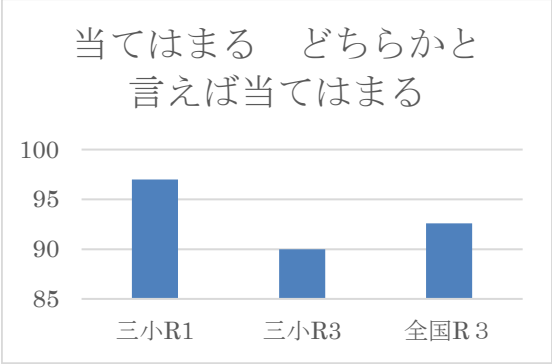
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

平日（月曜日から金曜日）、テレビゲーム（PC ゲーム、携帯式ゲーム　携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）を 1 日当たり 2 時間以上している。



本校の児童の半数以上が「平日に２時間以上ゲームをしている」と答えています。これは全国の状況と比べても高い割合を示しています。今後、学校から貸与しているタブレットを使用する頻度も高くなっていきます。生活リズムを整えていくためにも、また子どもたちの視力などの健康の観点からも ICT 機器の使い方に関する啓発をこれまで以上に大切にしていきます。

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



国語や算数の学習に対する意欲は比較的高いです。また、国語について「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問については、ほぼ全員が肯定的回答をしています。しかし、算数では、その割合が 90%程度となり、「当てはまる」と回答している児童の割合は 70%を切っています。

国語は、将来、社会に出て使っている場面が比較的イメージしやすいのかもしれませんが、算数はイメージしづらいのかもしれません。今後、授業の中でも「なぜこの勉強をしているのか」など、将来をイメージできるような働きかけを行っていきます。

６．保護者・児童のみなさんへ

〈児童のみなさんへ〉

・みなさんは、やるときめたことを最後までやりきることや課題解決に向けて自ら考え行動することができています。また、仲間と力を合わせ物事に取り組むことの大切さを感じることができており、学級集団としても力が付いてきています。

・学習に取り組む姿勢が定着してきており、まじめに取り組むこともできています。これからは、学習内容を理解することにとどまらず、学んだことを活用して資料や文章を読み取る力も身に付けていってほしいと考えています。このためには、失敗を恐れず、どんどんチャレンジし、いろいろな経験を積んでいきましょう。

〈保護者のみなさまへ〉

・本校の児童は、学習に対する意欲はとても高いものがあります。これは、ご家庭での子どもたちへの声かけや励ましのおかげだと感謝いたします。学校でも本格的に GIGA スクール構想が動き出し、子どもたちは日常的にタブレットに触れています。子どもたちの学習にとって、非常に有効な手段ではあります。一方で情報モラルなど、十分な啓発が必要です。学校でも継続的に指導はしていきますが、ご家庭でのご協力もお願いいたします。

・今回の結果から子どもたちの自己肯定感や学習への意欲が高いことが明らかになりました。この意識が今後も続くよう、学校でも取組みを進めていきます。ぜひご家庭でも励ましの声かけをお願いいたします。